

群 教 七	G03 - 02
	平25.251集
	中・特別活動

中学校特別活動における 自己存在感を高める話し合い活動の工夫

—伝え合い方の工夫と話し合いルールの改善を通して—

特別研修員 濱野 千世子

I 主題設定の理由

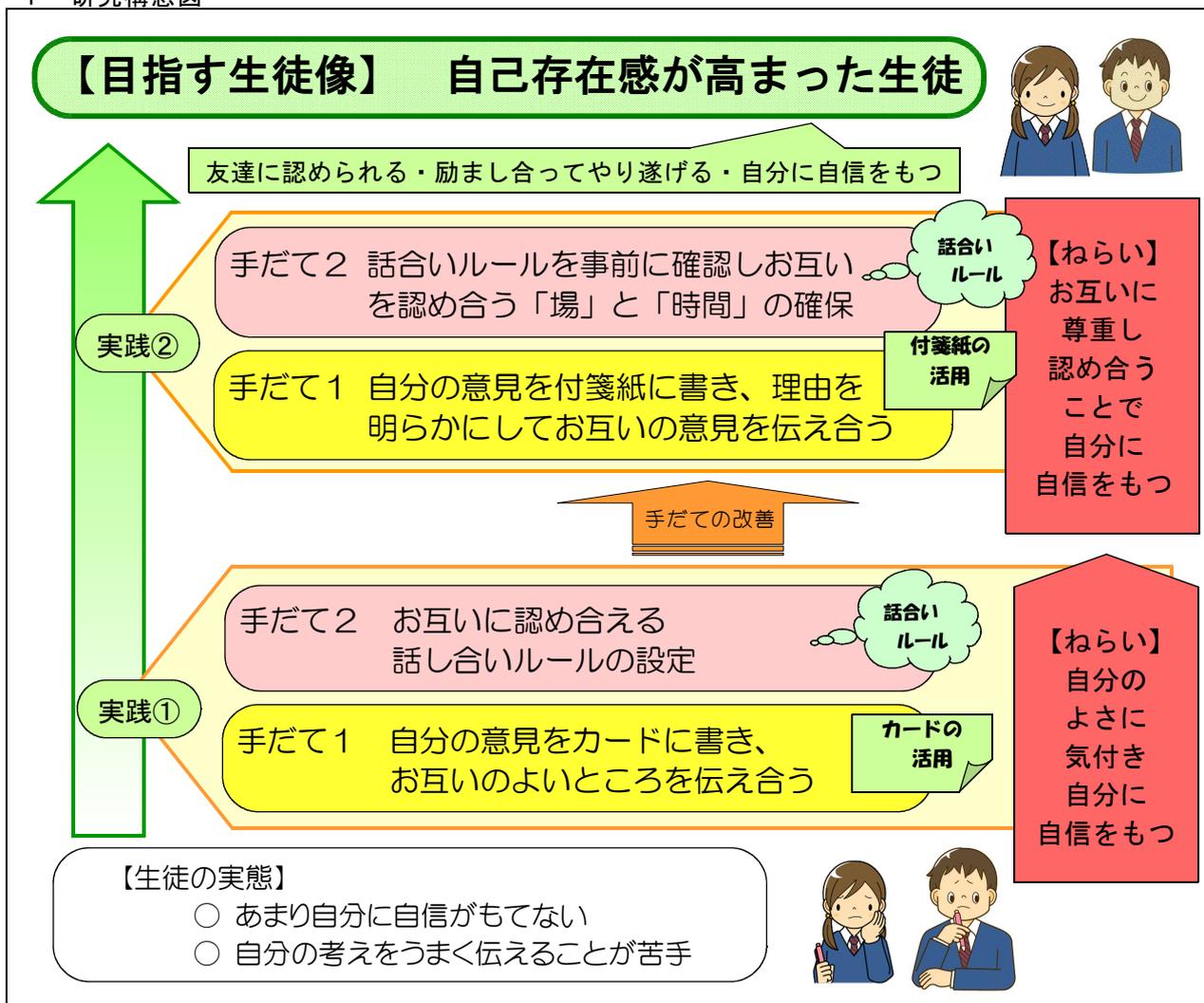
平成25年度学校教育の指針には、生徒指導の三つの機能の一つとして、『「自己存在感」を与える授業づくり』が挙げられている。「自己存在感」とは、人とかかわることを通して自分を知り、自分を受け入れ、自分を肯定的にとらえることができたときに感じられるものである。

本学級の生徒は、身近な友達とは楽しく生活を送れるが、かかわりの少ない友達に対して自分の思いをうまく表現できない生徒が多い。他者に流され、自分を出せていないと感じている生徒もいる。生徒へのアンケートを実施したところ、自己肯定感が低く、自分に自信をもてない生徒が多かった。

そこで、互いに認め合える場として話し合い活動を取り上げ、カードや付箋紙で考えを伝え合うこと、互いを大切にするための話し合いルールを用いることとした。これらを通して自分の意見を述べることで、友達に認められること、励まし合ってやり遂げることにより、自分に自信をもち、学級での自己存在感を高められると考えた。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手だて

題材「学級旗を作ろう」（第2学年・1学期）において、話し合い活動を行った。前半に小グループの話し合い、後半にそれを受けた学級全体での話し合いと、段階を経て意見をまとめた。

—〈実践1における研究上の手だて〉—

- 自分の意見をカードに書き、お互いのよいところを伝え合う。（手だて1）
 - ・よいところを具体的にカードに書いて交換することで、自分のよさに気付く。
- お互いの意見を認め合える話し合いルールを設定する。（手だて2）
 - ・話し合いのルールを口頭で説明し、お互いの意見を認め合おうとする気持ちをもたせる。

カードの交換や話し合いの中で自分のよさに気付く、それぞれが自信をもち、学級での自己存在感を高めることがねらいである。小グループの活動では、ルールに沿って話し合うことができ、カード交換の時には嬉しそうな様子が見られた。そこで、一人一人の考えを話し合いの場でより明確に残して生かす工夫ができれば、さらに充実感を得られ、お互いの考えをより大切にすることができるのではないかと考えた。次の学級全体での話し合い活動では、ルールが徹底されずに声の大きい生徒の意見が通ったり自分の意見を生かすことができない生徒が多数を占めたりと、一部の生徒の活動に偏ってしまう結果となり、全員が発言できるための改善が必要であると考えた。

そこで、題材「心をひとつにするにはどうしたらよいか」（第2学年・2学期）では、次のように手だてを改善した。

—〈実践2における研究上の手だて〉—

- 自分の意見を付箋紙に書き、理由を明らかにしてお互いの意見を伝え合う。（手だて1）
 - ・自分の意見を付箋紙に書き、ワークシートに書いた理由を述べながら意見をまとめる。
- 「話し合いルール」を事前に確認し、お互いの認め合う場と時間を確保する（手だて2）
 - ・全員が発言する、理由を明らかにするなどルールを明記し手元に置いて話し合いを促す。

話し合いの中で友達の考えを理解してお互いに尊重し認め合うことで、自分に自信をもって活動する意欲をもつことがねらいである。話し合いの場にいる全員が発言する機会を確保するため、事前に話し合いのルールをプリントで確認し、手元において話し合ったことが、お互いを気遣い、認め合える話し合いにつながった。また、付箋紙を用いたことで自分の意見が残り、話し合いに参加していることが視覚的にも明らかになった。ワークシートに理由を書いたことが自信をもって発言することにつながった。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 伝え合い方の工夫として段階的にカードや付箋紙を用いたことで、全員が話し合いに参加でき、自信をもった発言につながった。認められた嬉しさや、分かり合う満足感を得た生徒が多かった。
- 「話し合いルール」を明確にしたことで、特定の生徒の発言に偏らず、お互いを気遣いながら全員で話し合いに臨めた。話す機会や時間の確保もでき、落ち着いて意見を述べることができた。

2 課題

- 結論を急いだために全員の意見を聞かないで進めようとする場面も見られた。常に全員参加を意識できるようにし、お互いに認め合うための「場」と「時間」を確保できるようにしたい。
- 話し合い活動での認め合いが、その後の生活や授業でも継続していけるような機会を意図的に設け、身に付くようにしたい。

3 提言

- 話し合い活動の中で自己存在感をもつためには、一人一人の考えを表現する「場」と「時間」を確保すること、自分の意見を認められ、集団の一員であることを実感することが有効である。
- 話し合いの課題が身近であるほど、実体験を踏まえた考えや自信のある意見をもって話し合いに臨めるので、生徒の生活の中から必要感のある課題を設定するとよい。

IV 実践及び改善の実際

実践 1

1 題材名 「学級旗を作ろう」

2 本題材及び本時について

本題材は、各自で考えた学級旗のデザインを話し合いによって一つに決定し、旗に込めた願いを実現するための実践目標を自己決定する活動である。本時は、お互いの表現のよさをカードで伝え合うこと、話し合いの中で意見を述べることを通して、自分のよさに気づき、自信をもって活動に臨む意欲をもつことがねらいである。お互いに認め合い全員が話し合いに参加できるように、本時の研究上の手だてを次のように具体化した。

3 授業の実際

事前の活動として、友達のデザインに対し、表現のよいところを探してカードに書かせた。

展開 1 として、グループでカードを交換し、お互いのデザインのよいところを伝え合う活動を行った(図 1)。活動を行う前に、話し合いの基本ルールを口頭で確認し、心がけるように呼びかけた。

話し合いのルール

- ・ 司会は最初に発言し、必ず全員が発言できるよう、時計回りに指名する。誰かをとばしたり適当な発言をさせたりしない。
- ・ 話すときは、必ず理由を添える。カードやデザインを示しながら話す。
- ・ 聞くときは、話す人に体を向け、同意したりうなずいたりして共感の気持ちを表す。理由をよく聞き、質問してもよい。
- ・ 相手を傷つける言動をしてはいけない。



図 1 話し合いの様子

カードを活用してよいところを伝え合う様子

S1: 次はS2さんのデザインについてです。えっと、わたしはクラスで飼っているカメが描かれているのがいいと思った。カメはうちのクラスだけだから、入れるのはいいと思う。

S3: 私もカメを入れたいと思った。カメが楽しそうなのも3組が楽しくなりそうだからいい。

S1: S4君の番だよ。

S4: 僕も、カメの絵がかわいく描いてあるのがいいと思いました。

S1: いいよね。あと、クラスカラーがふんだんに使われているところ。3組！て感じ。

S3: 色塗りも上手。一つ一つのパーツが大きくて見やすいのでとてもいいと思う。

S1: S4は？

S4: 2-3が見やすく書いてあるのがいいと思います。

～ 自分の意見に理由を添えて伝える

話し合いのルールはごく基本的なことだったが、小グループでは話し合いが速やかに始められ、進行できた。そして発言する時に、理由を添えることができていた。友達の発言に合わせて自分の思ったことを話し合える雰囲気グループが多かった。

S4は、自分から話し出せない生徒であるが、順番どおりに発言させたことで発表前の心の準備もでき、落ち着いて話せていた。周りの友達も話しやすいように声をかけるなど気遣いをし、S4自身もデザインを友達に誉めてもらい、とても嬉しそうに照れた表情が見られた。活動後の感想でも、「みんながよいと言ってくれたので嬉しかった」と書いていた。

互いのよさを認め合った後、学級旗にどのような思いを込め、どのようにデザインに生かしたかを

伝え合い、「願い」「言葉」「モチーフ」の三つの観点でグループの意見をまとめた。

次に展開2として、グループの意見を発表し、学級全体で三つの観点ごとに要素を絞り込む活動を行った。展開1と同様に、話し合いのルールを確認してから話し合いを始めた。多数決ではなく、理由を大切にまとめて意識をもつことを加えた(図2)。



図2 全体で意見をまとめる様子

学級全体で意見をまとめる様子

S5: 先生、おれらの意見、よくない?

T: 悪くないけど、きちんと理由を言ってみて。どうしてその意見になったの?

S5: みんなでわーって楽しい感じになると、すごく盛り上がっていいから! いいでしょ!

(周りに同意を求める。周りもいい、と声を上げる)

T: なるほどね。(同じグループの) S6にも聞こうかな。この意見になった理由は?

S6: まだ、みんなで盛り上がったりしたことがあんまりないから、3組がみんなで楽しく過ごせたらいいなと思ったからです。楽しい雰囲気があると、みんなで協力とかもしやすいし、クラスがまとまると思うから、『楽しい』が一番の「願い」だと思います。

(周りが聞く雰囲気。同じ意見も多く、頷きも多い)

T: なるほどね。うん、このくらい理由があると分かりやすいね。

～理由を基に
話し合いを進める

S5: そうそう、俺も同じ。

T: この意見に対してなにかありませんか。他のグループの人、どうですか。

S7: 『楽しい』もいいけど、やっぱり、同じやるなら勝ちたいし、仲良く協力してやれば、勝つことにもつながると思うので、『勝利』の文字を入れたいです。

(なるほど、と納得する雰囲気)

S1: 勝つのは、もちろん勝ちたいけど、でも、みんなで楽しく明るい感じでやりたい。だから、『勝利』よりも『2-3』を明るい感じで描いて、楽しそうにした方がいいと思います。

S6: 同じです。だから、『楽しい』でいいと思う。なんか、みんなでやってる感じがいい。『2-3』も入れて。

S5は自分の意見をもっているが、思いの強さだけで話してしまい、言葉で理由を述べることができずに大声で周りを同意させようとしてしまう傾向にあった。友達理由を聞くことで自分の意見を整理し、周りへ配慮することにも気付けた。しかし、同意はしたものの、この後も大きな声での自由な発言が続いた。意見を求められても、全体の場では理由が言えない生徒も多かった。発言する生徒を中心に徐々に意見がまとまり、学級旗に盛り込む三つの要素が決定した。

事後の活動として、学級旗に込めた「願い」を実現させるため、各自が取るべき行動を具体的に決定して掲示し、実践した。

4 考察

お互いのよいところを伝え合う場を設けたことで、普段はあまりかわりがない友達と認め合えたり気付かなかった自分のよさを知ったりすることができ、自信につながっていた。カード交換の時の意見や理由を視覚的に残す工夫があれば、話し合いの中でも生かすことができ、お互いの考えをより大切にすることができたのではないかと考える。また、発言の順などのない自由な話し合いでは発言が特定の生徒に偏る傾向にあり、発言しても理由がなかったり声の大きな生徒の意見が通ったりする様子が見られた。話し合い全体を通して互いを認め合える場を設定することや考えを視覚化すること、話し合いのルールを守らせて友達を配慮する気持ちをもたせる工夫が必要だと考える。

実践 2

1 題材名 「心をひとつにするためにはどうしたらよいか」

2 本題材及び本時について

本題材は、合唱コンクールへの取組に関して、今までの練習の様子から設定した課題について話し合い、実践すべきことを決定する活動である。本時は、自分の考えを理由を明らかにして発表すること、相手を大切に話し合いを進めることを通して、友達の考えを理解してお互いに尊重し認め合うことで、自分に自信をもって活動する意欲をもつことがねらいである。実践1での反省を踏まえ、本時の研究上の手だてを次のように具体化した。

3 授業の実際

事前の活動として、一人一人が今までの練習を振り返って練習への取組のよい点と改善点を挙げ、出された意見から学級委員が「心をひとつにするためにはどうしたらよいか」という課題を設定した。実践1で見られた、理由を添えずに発言したり話し合いに夢中になって相手への配慮を忘れていたりといった状況を改善するために、話し合い活動で配慮することを再度確認し、話し合いルールをプリントにして配付した。手元に置かせ、話し合いの時には意識し、守るように促した。

(1) 意見を出し合う場面での付箋紙の活用

展開1として、一人一人が具体的な実践方法を出し合い、パートごとに意見をまとめる活動を行った。実践1では、意見や理由を目に見える形に残さなかったため、まとめる時に言い直したり自分で考えた理由を忘れてしまい意見が流れてしまったりという様子が見られた。

そこで実践2では、一人一人の意見が視覚的に残った状態で話し合いができるように、付箋紙を活用した(図3)。付箋紙に意見を書き、理由を添えて発表しながら大きな一枚の紙に貼っていった(図4)。また、発言するときは必ず理由を明らかにすること、意見をまとめるときには多数決ではなく理由を重視して決めることを意識させるため、理由をワークシートに書かせてから話し合いを行った。

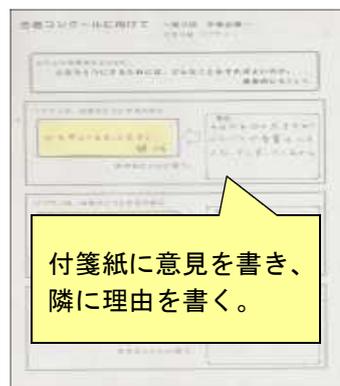


図3 付箋紙の活用①

付箋を活用して意見を出し合う様子

- S1: 出だしの音がはっきり出ていないから「息を吸うタイミングを合わせる」といいと思う。同じ人、いませんか。
- S2: 僕も同じ理由で、声を出すことが苦手だから、「タイミングを合わせて声出し」をすればいいと思います。チームワークがよくなるから、練習の最初に、声出しすると直ると思う。
- S1: 他にいない? S3君は?
- S3: ありがとうございます。僕もチームワークを大切にすることが大事だと思いました。チームワークがよければ集中して練習することができますと思います。
- S2: 「声出し」でいいの?
- S3: はい。僕も同じで、「声出し」をすればチームワークがよくなると思います。(____線部: 付箋紙、~~~~線部: 理由)

理由を言ってから付箋紙を貼る。話し合い中も理由に立ち返る。



図4 付箋紙の活用②

付箋紙を貼ることで、自分が話し合いに参加しているという自覚をもち、集中して話し合いに臨んでいた。全員が話し合いに参加していることが視覚的にも明らかになり、一人一人の発言の機会と考えを話す時間が確保されることにつながった。また、ワークシートに理由を書いたことで、友達の意見を聞

いた時に自分の考えをすぐに確かめることができ、同意したり付け加えたりという活動がスムーズにできていた。同じ考えをもっていても発言できない友達に対して、周りの生徒が付箋紙やワークシートを見て「同じことを書いてるよ」と声をかけ、発言を促す様子も見られた。S3は、自分の考えを伝えることが苦手な生徒だが、友達に促されて発言できていた。授業後の感想に「話し合いの中でチームワークが大切とみんなに言いました。みんなも大切だと理解してくれたので、うまく伝えることができてよかったです」と書いていた。

(2) 意見をまとめる場面での話し合いルールを活用

展開2として、学級全体で課題について意見をまとめる活動を行った。実践1の改善として事前に配付した「話し合いルール」のプリントを手元に置いて話し合いをさせた(図5)。また、お互いの意見を尊重し合い、認め合って話し合いを進めることを確かめた。

話し合いルールを活用して意見をまとめる様子

S4: 俺は「目標をもつこと」だと思うんだ。目標をもつことで、みんなの気持ちがまとまるじゃん。よくない?

S他: いいね! 僕もそれでいいと思う。(僕も、と大半が賛同)

S4: じゃあ決まりでいいよね。

T: ちょっとまって、具体的にはどうするの?

S4: タイミングを合わせて、でっかい声で歌うのがいいと思う。

T: S5は何も言ってないよ。いいの?

S4: あっ、そっか。S5、どう、これでいい?

S5: 僕は、タイミングをそろえるとみんなの声がまとまって、よりきれいに聞こえるようになると思うので、それでいいです。

S4: ねっ、先生、ほら、いいって。

T: よかったね。聞いててうなずいて終わりじゃなくて、きちんと言ってもらえることは大切だよ。同じ意見でも、全員が話せるように進めてね。

S4: そうだね。じゃ、次、決めようぜ。

全員に配布し、事前に確認する。
話し合いの時も手元に置く。



図5 話し合いルール

S4は、意欲的だが周囲の意見を聞くことが苦手な生徒である。途中で話し合いのルールを思い出させて全員が発言していないことに気付かせ、S5の発言を促すことができた。S5も意見はあるものの言い出すことができずにいたが、機会を得たことでしっかり発言できた。話し合い後の感想には、S4は「話し合いや練習で我慢を覚えた。前より協力することができるようになった!」と書いた。またS5は「話し合いで自分の意見を発表できました。友達の知らなかった優しいところが分かったので、今まであまり話していなかった人とも話せるようになりたいです。他の友達にも、もっとアドバイスなどができるようになりたいです」と書いていた。話し合いルールを用いたことで全員が発言でき、相手を気遣い、認め合う話し合いにつながった。発言できたことの充実感も感じられている。

この後、本番まで実践する具体的な方法(息を合わせる)を決定して本時を終えた。

事後の活動として、「息を合わせる」を教室掲示して練習の中で声を掛け合い、実践した。

4 考察

付箋紙に自分の意見を書いて出し合ったことや理由を明確にしたことで、一人一人が話し合いに参加している実感を持ち、自信をもった発言やお互いを気遣って話し合う態度につながった。また、話し合いのルールを明確にしたことで全員の発言の場を確保でき、お互いに認め合って話し合いに臨めた。

一人一人が発言する「場」と「時間」を確保すること、その場で同意や頷きを実感することが、集団の中にいる安心感となり、その積み重ねが自己存在感を高めることにつながると思われる。